

環境モデル都市提案書（様式1）

タイトル	太陽と水と緑がおりなす「環境リーディングシティ鹿児島」～南からの環境維新～	
提案団体	鹿児島市	人口：604,268人（2008年5月1日推計人口）
担当者名及び連絡先	担当者の所属 鹿児島市 環境局 環境部 環境政策課 氏名 西瀬戸 一郎（にしせと いちろう） 電話番号 099-216-1296 / ファックス番号 099-216-1292 メールアドレス kansei10@city.kagoshima.lg.jp	
1 全体構想		
1-1 環境モデル都市としての位置づけ		
<p>日本本土の南端に位置し、地球温暖化の影響をいち早く受ける鹿児島市。明治維新の原動力となったこの地から、断固たる決意を持って、市民総ぐるみで、内外のあらゆる機関や人々と協働し、環境維新を興していく。</p> <p>本市は、市街地の眼前に、雄大な桜島と波静かな錦江湾が広がる世界に誇れる景観、後背地に深緑の森林とのどかな田園地帯、豊富な温泉（県庁所在地で日本一の源泉数(273ヶ所)）など、都市と自然が共生する豊かな環境の中にある。</p> <p>気候は温暖で、2007年の平均気温は19.3℃である。しかし、100年前（1907年）と比較すると2.9℃上昇しており、地球温暖化の確かな現実がある。また、これまで台風や豪雨等による多くの自然災害と向かい合ってきている。</p> <p>市街地は、錦江湾に流入している甲突川など6つの二級河川により形成された小平野部にあり、その周辺の海拔100～300mの丘陵地帯等には、多くの大型団地（紫原団地・武岡団地など59か所）がある。</p> <p>また、中心市街地は、2011年春の九州新幹線全線開業を控え、南九州随一の繁華街「天文館」を中心に「中心市街地活性化基本計画」に基づき賑わいのあるまちづくりを進めており、多くの人々が行き交い、街は活気にあふれている。</p> <p>公共交通機関は、路面電車・バス（5社）・JR鉄道があり、特に、1912年に運行が始まった路面電車は、公営では日本最長の13.1kmを、昼間帯は約6～7分間隔で運行し、市民の身近な交通手段として親しまれている。これまで、電車線のセンターポール化、電車運行情報システム、バリアフリー対応超低床電車の導入、IC乗車カードの導入等の利用環境の向上に取り組んだ結果、利用者数は増加傾向にある。</p>		
	<p>加えて、2006年度から、都市景観とヒートアイランド対策の象徴的な事業として、全国初の本格的な軌道敷の緑化（芝生化）を進めている。緑化前に比べ夏の晴天時の地表面温度は18℃低く、騒音も4dB小さくなっている。シラス（白色の火山噴出物）でできた基盤に生える「緑のじゅうたん」は、街に潤いと安らぎをもたらす市民をはじめ観光客にも大変好評である。現在は2.8kmを整備しており、2012年度までに道路と併用する全ての区間8.9kmを整備し、約3haの緑地を創出する。</p>	
<p>さらに、2006年度からは、民間建築物の屋上・壁面緑化に対する助成や、公共施設の屋上・壁面緑化、学校校庭の緑化（芝生化）も進めており、約6,800㎡の緑を創出している。今後も、年間4,000㎡の緑を創出していく。</p> <p>2007年度には、関係機関と協働して、市内のマイカー通勤者を対象に、エコポイント制等を活用した公共交通機関の利用促進の社会実験を行い、さらに本年度は、webを活用したエコ通勤者とのコミュニケーションの強化、公共交通機関の利便性の向上などを図り、マイカーから公共交通機関への移動手段の転換を進めていく。</p> <p>また、中心市街地には、民間の自転車等駐車場に加えて、市営の自転車等駐車場10か所（収容台数4,804台）を整備し、利用者の利便性を高め、自転車での来街を促進している。</p>		
<p>地球温暖化防止には、市民の主体的な取組が必要であることから、本年10月には、市民一人ひとりが地球の未来を真剣に考え、環境に配慮した行動に結びつけていくための参加体験型の環境学習や環境保全活動の拠点施設として「かごしま環境未来館」（以下、環境未来館という）をオープンさせる。また、施設自体も、自然の通風や採光、地下水、雨水などの自然の恵みや、太陽光発電などの自然エネルギーを最大限に活用するなど、カーボンニュートラルを実現する「エコモデル施設」である。</p>		
<p>これまで、家庭の省資源・省エネルギーにつながる身近な取組を通してCO2の排出削減を実践してもらった「エコライフファミリー事業」や「体験型エコドライブ講習会」、地域住民が協働して行う「緑のカーテン（モデル）事業」などに取り組んでいる。また、2004年度から住宅用太陽光発電システムの設置に対し助成しており、2007年度現在の設置件数は約2,600</p>		



鹿児島市環境管理事業所認定式

件で中核市中第2位である。さらに、オフィスでのエコライフの定着を図るため、2005年度にISO14001に準拠した本市独自のEMSである「鹿児島市環境管理事業所認定制度」を創設し、事業者自ら省エネ等の取組を進めている。2007年度末現在でEMS導入事業所数は中核市中第1位である。

このように、本市では、1973年度の「鹿児島市民の環境をよくする条例」制定以後、様々な取組を進めてきており、「鹿児島市環境基本計画」に掲げる「循環と共生を基調にした環境文化都市・かごしま」の実現を目指してきた。さらに、2006年度には「鹿児島市地球温暖化対策地域推進計画」を策定し「かごしま市地球温暖化対策地域協議会」を中心に、市民、事業者と一体となって地球温暖化対策をさらに進めている。

本市は、本年度、温室効果ガスを大幅に削減しながら、経済発展と生活の豊かさを実現できる「低炭素社会」に向けた取組を加速させ、市民総ぐるみで持続可能な社会を構築するため、環境都市宣言を行うとともに、次の4つを重点事項とした「**環境リーディングシティ鹿児島**」の創造に取組み、南から、環境維新を興す。

1. 路面電車(LRT)を活かした「歩いて暮らせる緑の街」づくり

【将来像】路面電車が多くの市民を乗せて市街地を縦横に行き交う鹿児島市。高台の団地からはバスで最寄りの路面電車の電停まで移動(バスアンドレールライド)、郊外からは電気自動車ですり街地入口付近の電停やJR駅周辺に整備された大型駐車場まで移動(パークアンドライド)、市街地は路面電車やJR、自転車、徒歩で移動する。また、物流交通の規制・誘導や通過交通排除のためのバイパス道路の整備などにより市街地を走る車の量は極端に少なく、さらに、中心市街地はトランジットモール化されており、子どもから高齢者まで、安心してゆったりと歩いて生活している。

また、車線の一部を歩道に転換し大きな街路樹を植え、街に潤いと彩りを添え、その木陰は夏の強い日差しから、街や人々を守る。さらに「街の中の森」は、癒しを与えてくれる。憩いと和らぎのある調和のとれた街は、環境への貢献にとどまらず、本市の基幹産業の1つである観光産業の振興にもつながっている。

2. 「低炭素スタイル」への変革

【将来像】地球市民として、一人ひとりが地球の未来を真剣に考え行動する鹿児島市。自然の恵みによる太陽光発電やマイクロ水力発電、本市の豊富な温泉を活用する温泉排湯熱利用システムなどのクリーンエネルギーを自ら積極的に活用している。(2050年度の市内の太陽光発電システムによる発電量は、県内にある火力発電所全体の半分に相当する。)

また、食材の宝庫「美味のまち」鹿児島では、フードマイレージや安全性の観点から食の地産地消がなされている。

さらに、日々の活動に伴って排出されるCO2は、カーボンオフセットにより「ゼロ」に戻す取組が進んでいる。

このように、利便性と生活の質の豊かさを享受し、カーボンニュートラルを目指した「低炭素スタイル」を市民総ぐるみで実施している。

3. 郷中教育から生まれる「コミュニティエコ」の推進

明治維新の原動力となった鹿児島市。ここには独特の教育システムがある。町内ごとに作られた青少年による自治組織の中で、先輩が後輩を指導することでリーダーシップを養い、それぞれが人を敬い気遣うことを学び、友情で結ばれていく。これを郷中教育という。今日では、地域住民を加えた校区公民館制度として形を変え、今もその精神は引き継がれている。

【将来像】この精神を活かし、地域住民自らが、未来を担う子ども達を“地球を心から愛する地球市民”として育成し、地域総ぐるみのエコ活動(コミュニティエコ)を実践している。また、環境未来館では、参加体験型の環境学習講座や環境市民大学などを通じて、コミュニティエコの原動力となる地域住民の環境意識の高揚や環境保全活動の意欲の増進などが図られている。「低炭素スタイル」は、これら地球市民によるコミュニティエコの高まりによって達成されていく。

この有効なシステムを鹿児島モデルとして世界に向け発信し広めていく。

さらに、本市は、地理的に国内では地球温暖化の影響をいち早く受けることから、環境未来館は、異常気象による災害対策や害虫対策など本市で蓄積されたノウハウを内外に広く伝えていく情報発信基地になる。

4. 環錦江湾「水と緑のハーモニー」の創生

【将来像】雄大な桜島が浮かぶ美しい錦江湾を舞台に、湾内の地域や離島との交流が盛んな鹿児島市。本市の強いリーダーシップのもと、錦江湾で繋がる地域との連携により、湾内に流れ込む全ての河川は清流を取り戻し、その流域の森林は保全され、水と緑との共生が図られている。また、本市の発展に欠かせない離島等とは、カーボンオフセットによる緑化やクリーンエネルギー導入など地域一体となった取組が進められている。市民は、イルカも遊ぶ錦江湾で、清流で、森で、離島で、ヨット・カヌー・釣り・キャンプなど自然と親しみながらレジャーを楽しみ、豊かな自然からもたらされる恵みに感謝しながら、ゆったりとした時間を過ごす。



1-2 現状分析		
1-2-① 温室効果ガスの排出実態等	<p>本市の温室効果ガスの総排出量をCO2換算でみると、1990年度で4,377千トン、2003年度で4,841千トンと10.6%増加している。部門別の推移をみると、民生家庭部門は642千トンが808千トンと25.9%増加、民生業務部門は662千トンが994千トンと50.2%増加、運輸部門は2,094千トンが2,284千トンと9.1%増加、産業部門は723千トンが615千トンと14.9%減少している。</p> <p>また、2003年度の部門別排出割合は、運輸部門が最も多く47.2%、次に民生業務部門が20.5%、民生家庭部門が16.7%、産業部門が12.7%となっている。</p> <p>主な取組は次のとおりである。</p> <p>(運輸部門) 排出量が最も多いこの部門の大幅削減を図るため、電車運行情報システムや超低床電車の導入、バスアンドレールライド、市電軌道敷緑化など路面電車の利用促進に効果のあった取組を生かしながら、まちづくりと一体となった「総合交通計画」の策定や「中心市街地活性化基本計画」の着実な推進により、路面電車を活かした「歩いて暮らせる緑の街」づくりを進め、マイカーから公共交通機関への転換をさらに促進していく。</p> <p>また、運輸部門の53.2%は離島を結ぶフェリーなどの船舶部門であることから、本市は、エコシップの導入促進を図るため、市営の桜島フェリーへのエコシップの率先導入に向けた取組を進めている。</p> <p>(民生家庭部門) これまで効果のあった太陽光発電システムの設置を飛躍的に拡大するため、助成制度の拡充を図るとともに、グリーン電力地産地消システムを今年度創設する。また、市民の主体的な取組に加え地域が一体となった取組が重要であることから、現代版郷中教育を通じて地域住民自らが、未来を担う子ども達を地球市民として育成し、地域総ぐるみのコミュニティエコを実践する。さらに、環境未来館の環境学習講座などを通じて、コミュニティエコの原動力となる地域住民等の環境意識の高揚や環境保全活動の意欲の増進などを図るとともに、地域の環境リーダーを育成していく。</p> <p>(民生業務部門・産業部門) これまで効果を上げてきたISO14001に準拠した本市独自のEMSである「環境管理事業所制度」の導入をさらに促進するとともに、省エネ運転制御機器導入の助成制度を今年度創設するなど、事業所におけるエネルギー消費量の一層の削減を図る。</p>	
1-2-② 関係する既存の行政計画の評価	計画の名称及び策定期間	評価
	第四次鹿児島市総合計画(2005年10月改訂)	「市民が主役の鹿児島市の実現」を基本理念に、都市像「人とまち 個性が輝く 元気都市・かごしま」の実現に向け、総合的なまちづくりを進めている。
	鹿児島市環境基本計画(2000年10月策定)	総合計画に基づき「循環と共生を基調にした環境文化都市・かごしま」の実現に取り組んでいる。
	鹿児島市環境配慮率先行動計画(同上)	本市の地球温暖化対策の実行計画として、2001年度から取り組んでおり、2006年度は、温室効果ガス総排出量を1998年度比で約14%削減した。
	鹿児島市地域新エネルギービジョン(2003年2月策定)	総合計画及び環境基本計画に基づき、本市の新エネルギーの積極的な導入の促進を図るため、低公害車の計画的な導入促進、住宅用太陽光発電システムの設置促進、廃棄物発電の促進などを行っている。
	鹿児島市地球温暖化対策地域推進計画(2007年3月策定)	環境基本計画に掲げる地球温暖化対策の具体的な行動プランとして、2011年度における温室効果ガス総排出量を基準年度比(1990年度比)で8%削減する目標等掲げ、2007年7月には、市民、事業者、市で構成する「かごしま市地球温暖化対策地域協議会」を設立し、具体的な取組を行っている。
	かごしま都市マスタープラン(2007年3月改訂)	総合計画に基づき、コンパクトな市街地を形成する集約型都市構造の実現に取り組んでいる。
	鹿児島市中心市街地活性化基本計画(2007年12月認定)	「海と陸を結ぶ 南の“歓・交”拠点都市の創造」に向けて、「観光・商業・交流によるにぎわいのあるまちづくり」の取組を開始している。特に観光面では、大河ドラマ「篤姫」効果もあり、盛り上がりを見せている。

1-3 削減目標等	
1-3-① 削減目標	<p>雄大な桜島、美しく波静かな錦江湾など恵み豊かな自然と共生し、温室効果ガスを大幅に削減しながら、経済発展と生活の豊かさを実現できる「低炭素社会」に向けた取組を加速させ、市民総ぐるみで、持続可能な社会を構築する「環境リーディングシティ鹿児島」を創造し、世界へ発信していく。</p> <p>温室効果ガスの総排出量の削減目標（1990年比）は、地球温暖化によって引き起こされる甚大な被害の可能性を回避するために、次のとおりとする。</p> <p>◇2050年には70%</p> <p>◇2020年には30%</p>
1-3-② 削減目標の達成についての考え方	<p>2050年の削減目標を達成するため、次の取組を進める。</p> <p>1. 路面電車(LRT)を活かした「歩いて暮らせる緑の街」づくり</p> <p>路面電車を交通軸とした公共交通網の整備とあわせ、「歩いて暮らせる緑の街」づくりを進めることにより、運輸部門のCO2排出量の大幅削減を目指す。また、緑地面積を増やしCO2の吸収力を高める。</p> <p>◇自動車の平均移動距離：50%減</p> <p>2. 「低炭素スタイル」への変革</p> <p>クリーンエネルギーの導入や、フードマイレージの観点による食の地産地消を進め、民生家庭部門・民生業務部門・運輸部門のCO2排出量の大幅な削減を目指す。</p> <p>◇太陽光発電システムの普及率：戸建住宅50%/事業所30%</p> <p>◇太陽熱温水器の普及率：戸建住宅25%</p> <p>◇電気自動車等の普及率：90%</p> <p>◇環境管理事業所（従業員10名以上）：100%</p> <p>3. 郷中教育から生まれる「コミュニティエコ」の推進</p> <p>現代版郷中教育を通じて地域住民自らが、未来を担う子ども達を地球市民として育成し、地域総ぐるみのコミュニティエコを実践する。また、環境未来館では、環境学習講座などを通じて、コミュニティエコの原動力となる地域住民の環境意識の高揚や環境保全活動の意欲の増進などを図るとともに、地域の環境リーダーを育成していく。</p> <p>さらに、環境未来館は地球温暖化の情報発信基地として、異常気象による災害対策や害虫対策など本市の蓄積したノウハウを広く内外に伝えていく。</p> <p>4. 環錦江湾「水と緑のハーモニー」の創生</p> <p>雄大な桜島や美しい錦江湾をより良くするため、関係自治体等と協働して、島内・湾内はもとより、流れ込む河川やその流域一体の環境保全を図る。また、カーボンオフセットにより、離島等での緑化やクリーンエネルギーの導入等を地域一体となって進めていく。</p>
取組み方針	削減の程度及びその見込みの根拠
<p>路面電車(LRT)を活かした「歩いて暮らせる緑の街」づくり</p> <p>路面電車を交通軸とした公共交通網の整備とあわせ、「歩いて暮らせる緑の街」づくりを進めることにより、運輸部門のCO2排出量の大幅削減を目指す。また、緑地面積を増やしCO2の吸収力を高める。</p> <p>【主な取組】<input type="checkbox"/>自動車交通の利用を抑制する交通需要マネジメント施策や複数の交通機関の連携を図るバスアンドレールライド等のマルチモーダル施策の総合的な推進</p> <p><input type="checkbox"/>路面電車の活用と延伸の取組</p> <p><input type="checkbox"/>街なか居住の促進</p> <p><input type="checkbox"/>街なかの森の創出</p>	<p>CO2削減量：305千トン</p> <p>根拠：公共交通機関の整備や「歩いて暮らせる緑の街」づくりにより自動車平均走行距離15%削減</p>

	<p>「低炭素スタイル」への変革</p> <p>クリーンエネルギーの導入や、フードマイレージの観点による食の地産地消を進め、民生家庭部門・民生業務部門・運輸部門のCO2排出量の大幅な削減を目指す。</p> <p>【主な取組】<input type="checkbox"/>太陽光発電システムの導入のさらなる促進 <input type="checkbox"/>高気密・高断熱住宅の建築促進 <input type="checkbox"/>電気自動車等の導入促進 <input type="checkbox"/>本市独自のEMSのさらなる推進 <input type="checkbox"/>カーボンオフセットへの取組 <input type="checkbox"/>食の地産地消のさらなる促進</p>	<p>CO2削減量：1,891千トン</p> <p>根拠：再生可能エネルギーや電気自動車等の普及台数の見込量、目標達成計画（国）に相当する本市の削減見込量。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電システムの普及率： 戸建住宅30%/事業所10% ・太陽熱温水器の普及率：戸建住宅25% ・電気自動車等の普及率：10% ・環境管理事業所（従業員10名以上）：40%
	<p>郷中教育から生まれる「コミュニティエコ」の推進</p> <p>現代版郷中教育を通じて地域住民自らが、未来を担う子ども達を地球市民として育成し、地域総ぐるみのコミュニティエコを実践する。また、環境未来館では、環境学習講座などを通じて、コミュニティエコの原動力となる地域住民の環境意識の高揚などを図るとともに、地域の環境リーダーを育成していく。</p> <p>【主な取組】<input type="checkbox"/>現代版郷中教育による地球市民の育成 <input type="checkbox"/>環境未来館における環境学習・環境情報の発信 <input type="checkbox"/>地域住民との協働による取組 <input type="checkbox"/>研究機関、大学、NPO、企業等との連携</p>	<p>CO2削減量：－</p> <p>根拠：「低炭素スタイル」の施策を後押しするものであるため削減量の算出は不能。</p>
	<p>環錦江湾「水と緑のハーモニー」の創生</p> <p>雄大な桜島や美しい錦江湾をより良くするため、関係自治体等と協働して、島内・湾内はもとより、流れ込む河川やその流域一体の環境保全を図る。また、カーボンオフセットにより、離島等での緑化やクリーンエネルギーの導入等を地域一体となって進めていく。</p> <p>【主な取組】<input type="checkbox"/>関係団体等による錦江湾の自然環境の再生 <input type="checkbox"/>離島等との環境交流 <input type="checkbox"/>船舶の省エネ対策</p>	<p>CO2削減量：60千トン</p> <p>根拠：目標達成計画（国）に相当する本市の削減見込量。</p>
<p>1-3-③ フォローアップの方法</p>	<p>「環境政策推進会議」（市）と「かごしま市地球温暖化対策地域協議会」（官民）において、毎年、温室効果ガスの排出状況と施策の進捗状況を把握するとともに施策の効果を検証し、施策に反映させる。また、削減見込量に達成しないおそれのある場合は、新たな施策等を追加する。</p>	
<p>1-4 地域の活力の創出等</p>		
<p>雄大な桜島、イルカも遊ぶ美しい錦江湾、そこに流れ込む清流、その流域の清浄な森林など豊かな自然とふれあえる場を確保し、また、安全で便利な歩いて暮らせるコンパクトな街を構築することは、誰もが満足する豊かな生活を実現できる。この生活環境の質の向上は、安心・安全な子育てへとつながり、街の魅力の向上は、人口の社会減少の改善策の一つとなる。</p> <p>また、現代版郷中教育を通じて、地域住民自らが、未来を担う子ども達を地球市民として育成し地域総ぐるみでエコ活動に取り組むことは、弱体化しつつあるコミュニティが再生され地域の力が高まっていくとともに、この恵み豊かな環境を確実に次の世代につなぎ、持続可能な社会を構築していく礎となる。</p> <p>さらに、魅力多彩な国際観光都市を目指す鹿児島市にとって、世界に誇れる自然景観や安全美味な郷土の味、街歩きを楽しめることは、重要な観光資源となり、本市の基幹産業の一つである観光産業の振興につながっていく。</p> <p>そして、地産地消の取組は、フードマイレージや食の安心・安全の観点から、日本全体にその効果が波及し、低下している我が国の食料自給率の改善にもつながっていく。農業産出額全国第2位（2006年）の鹿児島県にある本市にとっても、その恩恵は大きく、農業（畜産含む）・水産業の第1次産業をはじめ、製造業やサービス業まで幅広い分野での産業振興が期待される。</p>		

2-1. 路面電車（LRT）を活かした「歩いて暮らせる緑の街」づくり

2-1-①. 取組方針

路面電車を交通軸とした公共交通網の整備とあわせ、「歩いて暮らせる緑の街」づくりを進めることにより、運輸部門のCO2排出量の大幅削減を目指す。また、緑地面積を増やしCO2の吸収力を高める。

2-1-②. 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
<p>(a) 路面電車（LRT）を交通軸とした公共交通機関の整備</p> <p><input type="checkbox"/> バスアンドレールライドやパークアンドライド、サイクルアンドライドなど総合的な交通施策のパッケージの組立てによる街づくりと一体となった交通政策の指針となる総合交通計画の策定</p> <p><input type="checkbox"/> 路面電車の活用及び延伸の研究</p> <p><input type="checkbox"/> 路面電車の優先通行を確保するための社会実験の実施及び今後の施策の検討</p> <p><input type="checkbox"/> 超低床型電車や低公害・低床型バスの導入</p> <p><input type="checkbox"/> バスロケーションシステムの導入調査の実施及び今後の施策の検討</p> <p><input type="checkbox"/> 鉄道、バス、船舶等の公共交通機関に関する統一的・総合的な情報提供システムの構築による円滑な情報提供の実施</p> <p><input type="checkbox"/> 自転車専用レーンの整備および自転車の利用促進</p> <p><input type="checkbox"/> モビリティ・マネジメントによる公共交通機関の利用促進</p>	<p>市</p> <p>国土交通省</p> <p>鹿児島県</p> <p>鹿児島県警察</p> <p>交通事業者</p> <p>2008年度～</p>	<p>CO2削減量：44.5千トン</p> <p>フォローアップ： 毎年、公共交通機関利用状況を把握し、新たな施策に反映させる。</p>
<p>(b) 「鹿児島市中心市街地活性化基本計画」に基づく取組</p> <p><input type="checkbox"/> 中央町23番街区市街地再開発事業による街なか居住の促進</p> <p><input type="checkbox"/> (仮称) いづろ・天文館地区商業活性化事業による賑わいの創出</p> <p><input type="checkbox"/> 市立病院建設事業・交通局施設リニューアル事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地内のJ T跡地に整備する市立病院や交通局舎に、太陽光発電システムや省エネ機器を導入するなど最大限に環境に配慮した施設とするとともに、敷地内の一体的な緑化などを実施 <p><input type="checkbox"/> 清滝川通り（仮称）整備事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 天文館地区を流れる暗渠化された清滝川の蓋を撤去し親水性をもたせ、市民や観光客が憩える空間の創出 	<p>市</p> <p>再開発組合</p> <p>事業者</p> <p>2007年度～</p>	
<p>(c) 街なか緑化の推進</p> <p><input type="checkbox"/> 路面電車の軌道敷の緑化推進（2012年度までに道路と併用する全ての区間の軌道敷を芝生で緑化（約3ha））</p> <p><input type="checkbox"/> 公共施設や学校の屋上・壁面や学校の校庭の緑化（芝生化）と民間建築物の屋上・壁面緑化のさらなる推進</p> <p><input type="checkbox"/> 「まちと緑のハーモニープラン」の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街化区域内で敷地面積が一定規模以上の建築物の新築や増築を行う場合に、一定以上の緑化を義務付ける制度の導入を検討 <p><input type="checkbox"/> 街なかの森の創出（J T跡地の一部約10,000㎡を樹木等で緑化）</p> <p><input type="checkbox"/> 都市緑化フェアの開催（2011年度の開催を目指す）</p>	<p>市・事業者</p> <p>2006年度～</p>	<p>CO2削減量：0.14千トン</p> <p>フォローアップ： 毎年、屋上等の緑化面積を把握し、新たな施策に反映させる。</p>

2-1-③課題

路面電車の新設及び延伸に対する補助制度の拡充

2-2. 「低炭素スタイル」への変革		
2-2-①取組方針		
クリーンエネルギーの導入や、フードマイレージの観点による食の地産地消を進め、民生家庭部門・民生業務部門・運輸部門のCO2排出量の大幅な削減を目指す。		
2-2-②5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a) クリーンエネルギー導入の飛躍的な拡大 <input type="checkbox"/> 太陽光発電システムや太陽熱温水器の設置助成の拡充 <input type="checkbox"/> グリーン電力地産地消システム制度の今年度創設 <input type="checkbox"/> マイクロ水力発電システムの公共施設への率先導入及び導入促進 <input type="checkbox"/> 温泉排湯熱利用システムの公共施設への率先導入及び導入促進 <input type="checkbox"/> 地中熱利用冷暖房システムの導入助成の創設 <input type="checkbox"/> コージェネレーション・ヒートポンプ給湯器の設置助成の創設 <input type="checkbox"/> 電気自動車及び低公害車の公用車への率先導入及び導入促進 <input type="checkbox"/> 高気密・高断熱住宅等の新築・改修や省エネルギー機器の設置に係る固定資産税の減免の検討 <input type="checkbox"/> クリーンエネルギー導入相談コーナーの設置	市・NPO 事業者 2004年度～	CO2削減量：520.2千トン フォローアップ： 業界と連携し、毎年導入実績を把握し、見込み量より低い場合は新たな施策を検討し、実施する。
(b) エコライフ・エコオフィスの推進 <input type="checkbox"/> 省エネアドバイザーの養成と省エネ相談等の実施 <input type="checkbox"/> エコライフファミリー制度の推進と「実践！お得なエコライフ」講座開講 <input type="checkbox"/> 環境に配慮した行動に特典を与えるエコポイントシステムの導入（今年度環境未来館のリユース・リサイクルショップで導入し市域全体に広げる） <input type="checkbox"/> 自動車を多数所有する事業所を対象とした自動車管理計画書の導入の検討 <input type="checkbox"/> エコドライブの推進（体験型エコドライブ講習会の開催等） ※<2007年度実績> 受講者平均：講習前（10.6km/L）→（21.2km/L） <input type="checkbox"/> 環境管理事業所認定制度の推進（本市独自のEMS導入の促進） <input type="checkbox"/> カーボン・マネジメント・マニュアルの作成、説明会の開催及び配布 <input type="checkbox"/> 省エネ運転制御機器の普及促進（今年度、助成制度を創設） <input type="checkbox"/> カーボンオフセットの仕組みの構築 <input type="checkbox"/> 本市が実施するイベントでのカーボンオフセットの実施 <input type="checkbox"/> レジ袋と白熱灯の撲滅運動およびノーマイカーデーの推進	市・事業者 かごしま市 地球温暖化 対策地域協 議会 2006年度～	CO2削減量：926.8千トン フォローアップ： 市民・事業者へのアンケート調査を実施し、結果を新たな施策に反映させる。
(c) 地産地消の推進 <input type="checkbox"/> 地域農林水産物のPR（旬の農林水産物を市民に提供し、産地の紹介や安全への取組・食材の持つ機能性・料理方法等の紹介による地産地消の推進） <input type="checkbox"/> 生産基盤の整備等による市内産野菜・果樹・茶の生産振興と安定供給 <input type="checkbox"/> 農地の有効活用（遊休農林の復元や農地の貸し借り促進） <input type="checkbox"/> 担い手農家や新規就農者など多様な担い手の確保・育成 <input type="checkbox"/> ゼロエミッションの実証（観光農業公園で、食品残渣等を利用した堆肥や廃食油等を利用したバイオディーゼル、バイオマス利活用）	市 鹿児島市農 産物等流通 促進協議会 農家 2004年度～	CO2削減量：－ フォローアップ： 市民・事業者へのアンケート調査を実施し、結果を新たな施策に反映させる。
2-2-③課題		
・住宅用太陽光発電システムの設置に対する補助制度の復活 ・太陽光発電の電力会社購入枠の撤廃	・電力会社による太陽光発電買上単価の引上げ ・エコステーションの設置に対する補助制度の創設	

※必ず改ページ

2-3. 郷中教育から生まれる「コミュニティエコ」の推進

2-3-①取組方針

現代版郷中教育を通じて地域住民自らが、未来を担う子ども達を地球市民として育成し、地域総ぐるみのコミュニティエコを実践する。また、環境未来館では、環境学習講座などを通じて、コミュニティエコの原動力となる地域住民の環境意識の高揚や環境保全活動の意欲の増進などを図るとともに、地域の環境リーダーを育成していく。

この有効なシステムを鹿児島モデルとして世界に向けて発信し広めていく。

さらに、環境未来館は地球温暖化の情報発信基地として、異常気象による災害対策や害虫対策など本市の蓄積したノウハウを広く内外に伝えていく。

2-3-②5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a) 現代版郷中教育による地球市民の育成 <input type="checkbox"/> 環境未来館で育成される地域の環境リーダーを核とする、地域における異年齢の集団による環境活動を通じて、子ども達自らが学習し楽しみながら、チームワーク、リーダーシップ、自己啓発力の醸成を図る「現代版郷中教育」を実施する <input type="checkbox"/> 海外に学んだ先人に倣い、薩摩環境留学生（大学生・高校生・中学生・小学生から構成されるチーム）の環境の先進地（海外・国内）への派遣	市・市民 2009年度～	
(b) 環境未来館における環境学習・環境情報の発信 <input type="checkbox"/> 環境未来館で、楽しく学べる環境学習講座や環境市民大学（仮称）などを開設し、市民の環境意識の高揚や環境保全活動の意欲の増進などを図るとともに、地域の環境リーダーを育成する <input type="checkbox"/> かごしま水族館や平川動物公園と連携し、生物を通じた環境学習の実施 <input type="checkbox"/> 環境情報システムの構築及び市民等が持つ環境情報のネットワーク化	市・市民 2008年度～	
(c) 地域住民との協働による取組 <input type="checkbox"/> 家屋の窓際に蔓性の植物を這わせ遮光することで室温上昇を抑制する「緑のカーテン」モデル事業を地域住民と協働で行い、市内全域へ広げていく	市・市民・協議会 2008年度～	
(d) 学校における環境教育の推進 <input type="checkbox"/> 学校版環境 ISO 普及事業のさらなる推進（本市独自のEMSを今年度中に全ての小・中学校（117校）に普及させ、取組を加速させる） <input type="checkbox"/> 小中学校でさつまいもや古代米の栽培など農業体験学習の実施	市 2006年度～	
(e) 地球温暖化対策の情報提供、普及啓発 <input type="checkbox"/> 地球温暖化に特化したホームページ等による省エネ住宅、省エネ機器、HEMSなどの情報提供	市・事業者 2008年度～	
(f) 研究機関、大学、NPO、企業等との連携 <input type="checkbox"/> 共同研究の実施及び環境会議などの誘致とその支援 <input type="checkbox"/> 環境ビジネスの研究	市・NPO 大学・事業者 2009年度～	
(g) 環境未来館＝地球温暖化の情報発信基地 <input type="checkbox"/> 本市がこれまで体験してきた、災害対策や害虫対策など、また、これから受ける影響のノウハウを広く発信するとともに、生活者の視点で、暑さをしのぐ市民の知恵など、日常生活の温暖化対策情報も発信する	市・市民 2008年度～	

2-3-③課題

2-4. 環錦江湾「水と緑のハーモニー」の創生

2-4-① 取組方針

雄大な桜島や美しい錦江湾をより良くするため、関係自治体等と協働して、島内・湾内はもとより、流れ込む河川やその流域一体の環境保全を図る。また、カーボンオフセットにより、離島等での緑化やクリーンエネルギーの導入等を地域一体となって進めていく。

※九州南端から南西にのびる南西諸島（薩南諸島）にある三島村・十島村は、島内ではなく本市内に役場を構えており、また、三島村には、本市教育施設の「冒険ランドいおうじま」が設置されているなど、本市と連携した施策が展開できる。

2-4-② 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減見込み・フォローアップの方法
<p>(a) 環錦江湾環境共同体（仮称）の設立とその取組</p> <p>本市がリーダーシップをとり関係団体等と協働する環錦江湾環境共同体（仮称）を設立し、自然環境の再生に取組む</p> <p><input type="checkbox"/> 環錦江湾子どもサミットの開催</p> <p><input type="checkbox"/> 錦江湾のクリーンアップ作戦の実施（地域住民や水産業者等と連携し、湾内の清掃を行う。同時に流れ込む河川やその流域の清掃を行う）</p> <p><input type="checkbox"/> ウミガメネットワークの構築による産卵地の保全と情報の共有化</p> <p><input type="checkbox"/> 自然環境に配慮した海洋利用の促進（体験教室や講座等の開催）</p> <p><input type="checkbox"/> 環境配慮型養殖の推進（湾内の養殖業者への関係機関と連携し、技術指導を行いながら汚さない養殖を促進する。また、EMSの取得も促進する）</p> <p><input type="checkbox"/> 市民等との協働による本市の水がめである甲突川の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水源かん養のための上流域の森林整備等の実施 ・下流域における親水性の創出（市街地を流れる区間約5kmの高水敷を整備し、市民や観光客が水辺で楽しめる憩いの場や散策路を創出する） <p><input type="checkbox"/> 桜島の森づくり運動（桜島赤水地区などの市の遊休地等を活用して、市民、NPO、企業等が樹木の植栽から管理まで行う市民の森づくりを実施する）</p> <p><input type="checkbox"/> 耕作放棄地の緑化の推進（耕作を放棄した民有地の緑化を促進するための助成制度を検討する）</p>	<p>市・関係団体 市民・NPO 事業者 2008年度～</p>	
<p>(b) 離島等との連携</p> <p><input type="checkbox"/> 今年度実施の「緑のカーテン」事業で採種する蔓性植物の種を離島へ運びそこで育てることにより離島との環境交流を図る</p> <p><input type="checkbox"/> NPO等と連携したカーボンオフセットによる離島等への緑化やクリーンエネルギー導入を図る仕組の検討</p> <p><input type="checkbox"/> エコツーリズムの実施</p>	<p>市 市民・NPO 事業者 2008年度～</p>	
<p>(c) 環錦江湾からの情報発信</p> <p><input type="checkbox"/> 関係自治体等と協働した取組を進める中で得た情報や温暖化対策を、環境未来館から発信する</p>	<p>市・関係団体 市民 2008年度～</p>	
<p>(d) 船舶の省エネ対策</p> <p><input type="checkbox"/> 船舶のエコドライブの促進（船舶所有者等に対する講習会の開催など）</p> <p><input type="checkbox"/> エコシップの導入促進（市営の桜島フェリーに率先導入し、その効果等をPRし、普及を図る）</p>	<p>市・事業者 2009年度～</p>	<p>CO2削減量：60.4千トン フォローアップ：船員へのアンケート調査を実施し、新たな施策に反映させる。</p>

2-4-③ 課題

3. 平成 20 年度中に行う事業の内容	
取組の内容	主体・時期
<ul style="list-style-type: none"> ・ 対応方策の実践的具体的活動のための事業 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 鹿児島市総合交通計画（仮称）の策定 ◇ バスロケーションシステムの導入調査 ◇ エコポイントシステムの導入 ◇ カーボン・マネージメント・マニュアルの作成 ◇ 緑のカーテン（モデル）事業 ◇ 簡易包装キャンペーン 	<ul style="list-style-type: none"> 市・2008年～ 市・2008年～ 市・2008年10月～ 市・協議会・2008年～ 市・協議会・2008年5月～ 市・協議会・2008年～
<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境モデル都市アクションプランの策定に向けた合意形成のために行う事業 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 環境フェア ◇ 環境未来館での各種環境イベント ◇ 体験型エコドライブ講習会 ◇ 地球温暖化フォーラム 	<ul style="list-style-type: none"> 市・市民・2008年10月 市・市民・2008年10月～ 市・協議会・2008年9月～ 市・協議会・2008年12月
<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境モデル都市アクションプランの実施のために行う事業 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 自転車専用レーン整備事業 ◇ 清滝川通り（仮称）整備事業 ◇ 緑化推進（路面電車の軌道敷、公共施設、学校、民間建築物） ◇ グリーン電力地産地消システム制度の創設 ◇ 省エネ運転制御機器の普及促進 ◇ 市民等との協働による甲突川の保全 ◇ ウミガメネットワーク構築による情報の共有化 ◇ 温室効果ガス総排出量の算定 	<ul style="list-style-type: none"> 市・2008年～ 市・2007年～ 市・市民・事業者・2008年 市・NPO・2008年 市・事業者・2008年 市・市民・2008年 市・市民・事業者・2008年 市・2008年7月～翌年2月
4. 取組体制等	
行政機関内の連携体制	本市では、「環境政策推進会議（会長：副市長）」を設置し、「環境基本計画」及び「地球温暖化対策地域推進計画」の総合的な進行管理を行っている。
地域住民等との連携体制	<p>本市には、官民で構成される「かごしま市地球温暖化対策地域協議会」や「環境パートナーシップかごしま（通称：エコパかごしま）」のほか、NPOの「かごしま市民環境会議」や「地球環境フォーラム鹿児島」など、60を超える環境保全活動団体があり、地域一体となって、環境に配慮した持続可能な地域づくりを進めている。</p> <p>今年度は、伊敷台中央町内会、協議会、市が協働して、緑のカーテン（モデル）事業を実施している。また、NPOと連携してグリーン電力地産地消システムを創設し、太陽光発電システムの設置促進とエネルギーの地産地消に取り組む。</p>
大学、地元企業等の知的資源の活用	<p>鹿児島大学と2007年度に、包括連携協定を結び、本市のまちづくりや地域経済の活性化について連携を図っている。</p> <p>2-2-②-(b) 環境管理事業所として認定された事業所は環境負荷を低減する取組を進めているが、web上で、この事例を取り上げ、また情報交換の場を設けることで、企業間の情報の共有化を図る。</p> <p>2-3-②-(b) 環境未来館における環境学習・環境情報の発信や環境市民大学について、鹿児島大学から講師等の協力を受ける予定である。</p> <p>2-3-②-(f) 研究機関、大学、NPO、企業等と連携し、共同研究の実施及び環境会議などの誘致等を図るとともに、環境ビジネスの研究を行う。</p>

(鹿児島市)環境モデル都市提案書(様式2)

1-1 環境モデル都市としての位置づけ

本市の特性

日本本土の南端(地球温暖化の影響が早い)
 ※平均気温が100年前より2.9℃上昇
 都市と自然が共生する豊かな環境
 街を行き交う路面電車
 郷中教育～伝統の教育システム
 錦江湾がつなぐ地域交流

【市民総ぐるみによる持続可能な社会の構築】

1. 路面電車(LRT)を活かした「歩いて暮らせる緑の街」づくり
2. 「低炭素スタイル」への変革
3. 郷中教育から生まれる「コミュニティエコ」の推進
4. 環錦江湾「水と緑のハーモニー」の創生

太陽と水と緑がおりなす
 「環境リーディング
 シティ鹿児島」
 ～南からの環境維新～

1-2. 現状分析

【本市の温室効果ガスの総排出量(CO2換算)】

1990年度：4,377千トン⇒2003年度：4,841千トン(10.6%増加)

【部門別の推移(1990年度⇒2003年度)】

民生家庭部門：642千トン⇒808千トン(25.9%増加)
 民生業務部門：662千トン⇒994千トン(50.2%増加)
 運輸部門：2,094千トン⇒2,284千トン(9.1%増加)
 産業部門：723千トン⇒615千トン(14.9%減少)

【2003年度の部門別排出割合】

運輸部門：47.2% 民生業務部門：20.5%
 民生家庭部門：16.7% 産業部門：12.7%

【主な取組】

運輸部門：マイカーから公共交通機関への転換
 民生家庭部門：エネルギー等の地産地消、コミュニティエコの推進
 民生業務・産業部門：EMS導入等によるエネルギー消費量削減の一層の促進

1-4. 地域の活力の創出等

低炭素社会実現への取組

豊かな自然(桜島、錦江湾など)とのふれあい、安全で便利な歩いて暮らせる街
 ◎誰もが満足する豊かな生活◎安心・安全な子育て◎人口減少の改善

未来を担う地球市民の育成及びコミュニティエコ
 ◎地域コミュニティの再生・強化
 ◎環境を確実に次の世代に繋ぎ、持続可能な社会を構築していく礎

世界に誇れる自然景観や安全美味な郷土の味、街歩き
 ◎観光産業の振興

食の地産地消の取組
 ◎日本全体にその効果が波及し、低下している我が国の食料自給率の改善
 ◎農・水産業の第1次産業から製造業やサービス業まで幅広い分野の産業振興

1-3. 削減目標等

雄大な桜島、美しく波静かな錦江湾などの恵み豊かな自然と共生し、温室効果ガスを大幅に削減しながら、経済発展と生活の豊かさを実現できる「低炭素社会」に向けた取組を加速させ、市民総ぐるみで、持続可能な社会を構築する「環境リーディングシティ鹿児島」を創出し、世界へ発信していく。

温室効果ガスの削減量目標(1990年比)
 ◇2050年：70% ◇2020年：30%

1. 路面電車(LRT)を活かした「歩いて暮らせる緑の街」づくり
 - ・運輸部門のCO2排出量の大幅削減とCO2吸収源である緑地面積の拡大
 ◇自動車の平均移動距離:50%減
2. 「低炭素スタイル」への変革
 - ・クリーンエネルギーの導入や食の地産地消を進め、民生家庭・民生業務・運輸部門のCO2排出量の大幅な削減
 ◇太陽光発電システムの普及率:戸建住宅50%/事業所30%
 ◇太陽熱温水器の普及率:戸建住宅25%
 ◇電気自動車等の普及率:90%
 ◇環境管理事業所(従業員10名以上):100%
3. 郷中教育から生まれる「コミュニティエコ」の推進
 - ・現代版郷中教育を通じた地域住民による地球市民の育成とコミュニティエコの推進
 - ・環境未来館による環境意識の高揚等と地域環境リーダーの育成
 - ・環境未来館からの地球温暖化に関する情報発信
4. 環錦江湾「水と緑のハーモニー」の創生
 - ・関係自治体等との協働による錦江湾等の広域的・一体的な環境保全
 - ・カーボンオフセットによる離島等での緑化やクリーンエネルギーの導入等

【フォローアップ】

「環境政策推進会議」と「かごしま市地球温暖化対策地域協議会」による温室効果ガスの排出状況や施策のモニタリング及びフィードバック

(鹿児島市)環境モデル都市提案書(様式2)

